

九州初 大型水素燃料電池バスの運行開始式が執り行われる

ー水素社会地域モデルの構築に向けた取組みー

事業開発本部

11月14日、当社が九州電力(株)の委託先として参画している^ネ_ド事業「九州における余剰再生可能エネルギー等のゼロエミッション電源を用いた水素社会地域モデルの構築に向けた技術開発」において、大型水素燃料電池バス（以下、FCバス）の運行開始式が九州大学伊都キャンパス（福岡県福岡市西区）にて、執り行われました。

本実証事業は、九州の豊富なゼロエミッション電源（発電時に二酸化炭素を排出しない電源）を用いて製造した水素を「地産地消」で利活用する水素社会地域モデルの構築を目指し、キャンパス構内の水素ステーションの改修及びFCバスの運行を行うもので、当社は全体統括を行う九州電力(株)からの業務委託のもと、FCバスの運用に関する実証データの収集及びその他の調整などを行います。

FCバスは、充填した水素と空気中の酸素を反応させて発生した電気走り、走行中に二酸化炭素を排出しない仕組みで、営業運行するのは、九州では初の試みです。

同FCバスは2025年度末までの運行を予定していて、当面は九州大学伊都キャンパスとJR九大学研都市駅間（片道約6km）を毎日2往復し、運行状況に応じて往復回数の変更を検討する予定です。また、燃料として供給する水素は、キャンパス構内の水素ステーションで製造されます。

本式典には、九州電力(株)の池辺社長に加え、九州大学の石橋総長、福岡県の服部知事などの関係者が出席し、当社からは藤本副社長が出席しました。

今後も当社は、九州電力(株)と九州大学をはじめ、本実証事業に関係する企業とともに、産学官連携で水素の社会実装を目指し、2050年カーボンニュートラル実現に向けた取組みを展開していきます。



▲藤本副社長と事業開発本部のメンバー（水素ステーションの前で記念撮影）



▲キャンパス構内の水素ステーションで披露されたFCバス



▲バスの後部には当社及び本実証事業に関係する企業の社名が掲示されています。



▲テープカットを行う藤本副社長(左から3番目)